

第2回小学校 道徳教育推進 リーダー養成研修

平成27年11月13日（金）

県立教育研究所 分館講座室A

道徳科の目標とそのポイント

道徳科の目標

(小学校学習指導要領 総則 第3章 特別の教科 道徳の「第1 目標」より)

- ▶ 道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。



ポイント

- 道徳科が目指すものは、道徳教育の目標と同様に道徳性を養うことである。
- 道徳教育の要としての役割を果たすことができるよう、計画的、発展的な指導を行う。
- 道徳科の授業では、特定の価値観を児童に押しついたり、主体性をもたずに言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育の目指す方向の対極にあるものである。

道徳科の目標（1）

道徳的諸価値について理解する

▶ 【価値理解】

内容項目は、人間としてよりよく生きていく上で大切なことであると理解すること。

▶ 【人間理解】

道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなどを理解すること。

▶ 【他者理解】

道徳的価値を実現したり、実現できなかつたりする場合の感じ方、考え方はひとつではない、多様であるということを前提として理解すること。

道徳科の目標（２）

自己を見つめる

- ▶ これまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせながら、さらに考えを深めること。
- ▶ 道徳性を養う意義について、児童自らが考え、理解できるようにすることが大切である。

道徳科の目標（3）

物事を多面的・多角的に考える

- ▶ 児童が多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えること。
- ▶ 物事を一面的に捉えるのではなく、児童自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすること。
- ▶ 物事を多面的・多角的に考えることができるようにする指導上の工夫として、発達の段階に応じて二つの概念が互いに矛盾、対立しているという二項対立の物事を取り扱うことなども考えられる。

道徳科の目標（４）

自己の生き方についての考えを深める

- 児童は、道徳的価値の理解を基に自己を見つめるなどの道徳的価値の自覚を深める課程で、同時に自己の生き方についての考えを深めているが、特にそのことを強く意識させることが重要である。

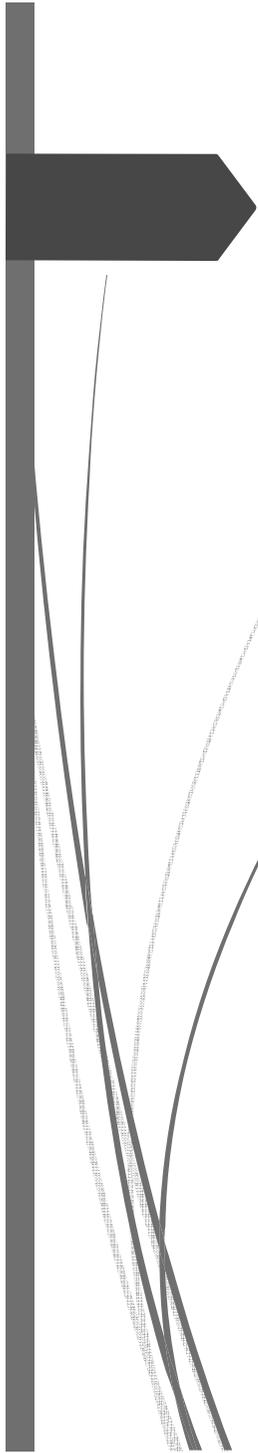
道徳的価値の理解を自分との関わりで深める。

自分自身の体験やそれに伴う考え方や感じ方などを確かに想起する。

- 児童が道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止められるようにする。

身近な集団の中で自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめられるようにする。

これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができるようにする。



道徳科の目標（５）

道徳的な判断力、心情、 実践意欲と態度を育てる

▶【道徳的判断力】

人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力である。

▶【道徳的心情】

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情。道徳的行為への動機として強く作用するものである。

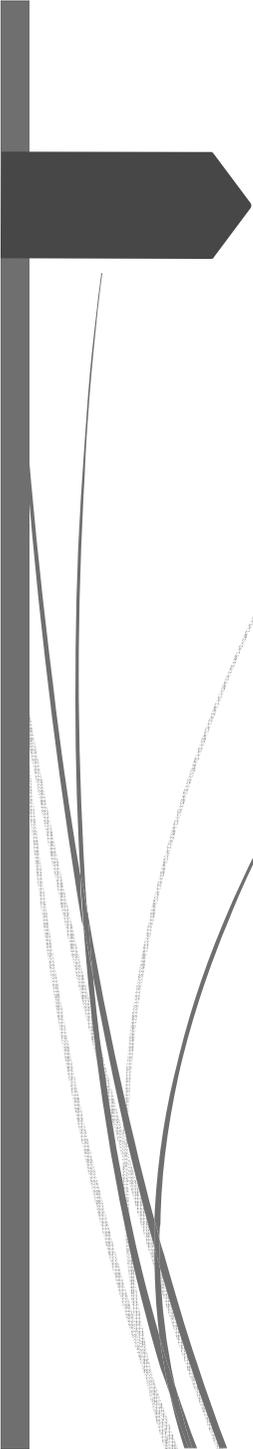
▶【道徳的実践意欲と態度】

道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする意志の働きや具体的な道徳的行為への身構えである。

道徳科の指導の基本方針（1）

道徳科の特質を理解する

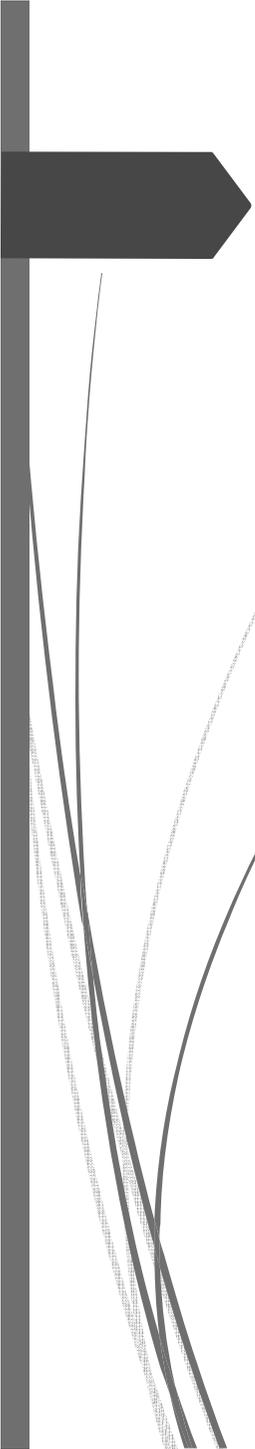
- 道徳科は、児童一人一人が、ねらいに含まれる一定の道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間である。このことを共通に理解して授業を工夫することが大切である。



道徳科の指導の基本方針（２）

教師と児童、児童相互の 信頼を基盤においた指導

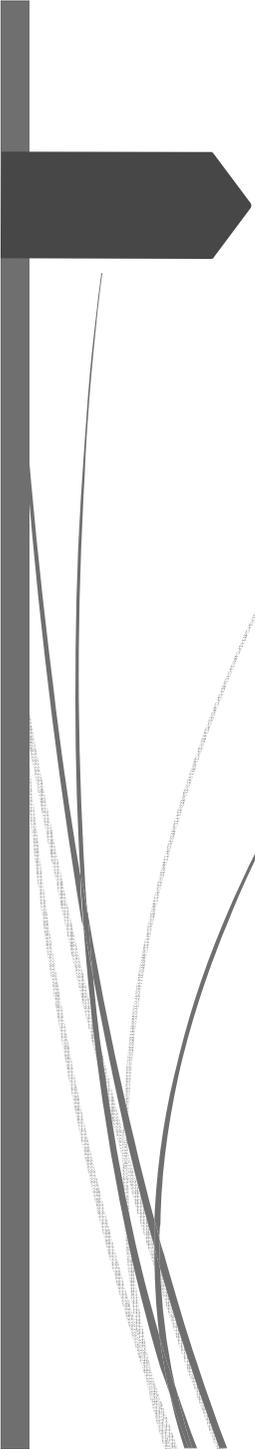
- ▶ 道徳科の指導を効果的に行えるようにするために、一人一人が自分の考え方や感じ方を伸び伸びと表現することができる雰囲気や日常の学級経営の中でつくるようにする。



道徳科の指導の基本方針（3）

児童の自覚を促す指導方法

- ▶ 道徳科の指導が目指すものは、個々の道徳的行為や日常生活の問題処理に終わるものではない。
- ▶ 道徳的価値についての単なる知的理解に終始したり、行為の仕方そのものを指導したりする時間ではない。
- ▶ 道徳的価値を自分との関わりにおいて捉える時間である。



道徳科の指導の基本方針（４）

児童の発達や個に応じた 指導を工夫する

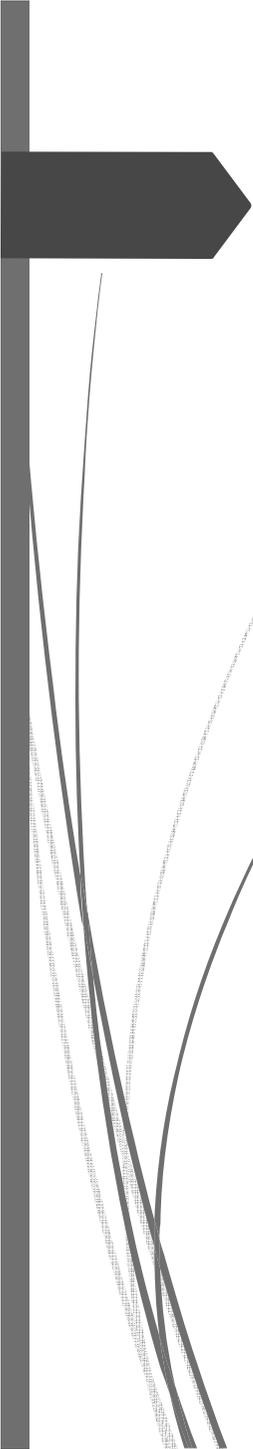
- ▶ 一人一人の考え方や感じ方を大切にした授業の展開を工夫すること。
- ▶ 児童が現在の自分の在り方やこれからの生き方を積極的に考えられるようにすること。

道徳科の指導の基本方針（5-1）

問題解決的な学習、体験的な活動など 多様な指導方法の工夫をする

▶ 【問題解決的な学習】

相反する道徳的価値について、どちらか一方の選択を求められる場面の多くは、答えが一つではなく正解は存在しない。こうした問題について、多面的・多角的に考察し、主体的に判断し、よりよく生きていくための資質・能力を養うためには、児童が道徳的価値を自分との関わりで考えることができるような問題解決的な学習を取り入れることが有効である。

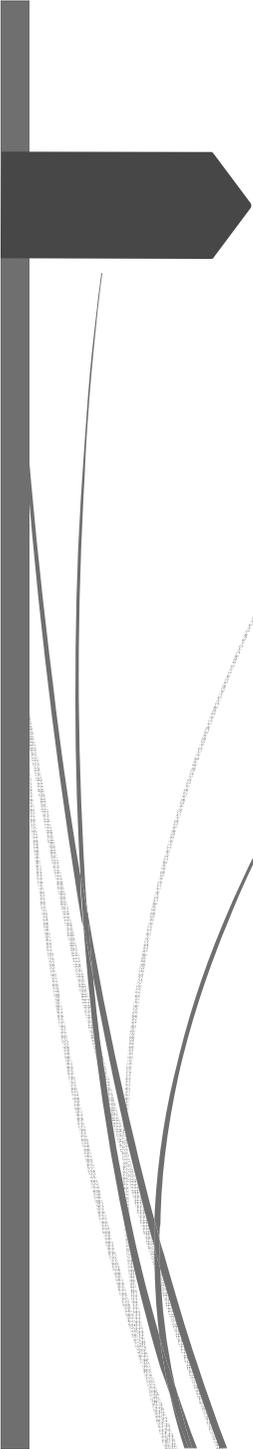


道徳科の指導の基本方針（5-2）

問題解決的な学習、体験的な活動など 多様な指導方法の工夫をする

▶ 【体験的な活動】

学校の教育活動全体で行う道徳教育の要として、それぞれの教育活動で行われた指導を補ったり、深めたり、まとめたりするなどの役割を果たす道徳科の特質を踏まえ、ねらいに含まれる道徳的価値の側面から他の教育活動との関連を把握し、それを生かした授業を工夫することが大切である。



道徳科の指導の基本方針（6）

道徳教育推進教師を中心とした 指導体制の充実

- ▶ 校長の方針の下に学校の全教師が協力しながら取組を進める。
- ▶ 道徳科の授業への校長や教頭などの参加、他の教師との協力的指導、保護者や地域の人々の参加や協力などが得られるように工夫すること。

道徳科の特質を生かした学習指導の展開（1－1）

道徳科の学習指導案の内容 1

- ▶ 【主題名】

ねらいと教材で構成し、授業の内容が概観できるように端的に表したものの

- ▶ 【ねらい】

ねらいとする道徳的価値や道徳性の様相を端的に表したものの

- ▶ 【教材】

教科用図書やその他、授業において用いる副読本等の中から、指導で用いる教材の題名

※出典等を併記すること※

道徳科の特質を生かした学習指導の展開（1－2）

道徳科の学習指導案の内容 2

▶ 【主題設定の理由】

- ①ねらいや指導内容についての教師のとらえ方
- ②関連する児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い
- ③教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法 など

▶ 【学習指導過程】

- 一般的に、導入・展開・終末の各段階で区分
- 児童の学習活動、主な発問と予想される児童の発言、指導上の留意点、評価の観点 など

▶ 【その他】

授業が円滑に進められるよう必要な事柄を記述（教材分析、板書計画、評価の観点）

道徳科の特質を生かした学習指導の展開（２）

学習指導案作成の主な手順

▶ 【ねらいの検討】

指導の内容や教師の指導の意図を明らかにする。

▶ 【指導の重点の明確化】

ねらいに関する児童の実態と、それを踏まえた教師の願いを明らかにし、各教科等での指導との関連を検討して、指導の要点を明確にする。

▶ 【教材の吟味】

教科用図書や副読本等の教材について、授業者が児童に考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討する。

▶ 【学習指導過程の構想】

児童がどのような問題意識をもって学習に臨み、ねらいとする道徳的価値を理解し、自己を見つめ、多様な感じ方や考え方によって学び合うことができるのかを具体的に予想しながら、それらが効果的になされるための展開を構想する。

○児童が道徳的価値に関わる事象を主体的に考えられるようにする。

○児童同士の話合いを通してよりよい生き方を導き出せるようにする。

道徳科の特質を生かした学習指導の展開（3）

導入の工夫

- ▶ 主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階

【学習活動】

本時の主題に関わる問題意識をもたせる導入
教材の内容に興味や関心をもたせる導入

など

道徳科の特質を生かした学習指導の展開（４）

展開の工夫

- ねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な教材によって、児童一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる段階

【学習活動】

児童の実態と教材の特質を押さえた発問などをしながら進める。

【ポイント】

児童がどのような問題意識をもち、どのようなことを中心にして自分との関わりで考えを深めていくのかについて主題が明瞭となった学習を心掛けること。

道徳科の特質を生かした学習指導の展開（５）

終末の工夫

- ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階

【学習活動】

学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる。

学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりする

など